

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第3部門第3区分

【発行日】平成23年10月27日(2011.10.27)

【公表番号】特表2010-539305(P2010-539305A)

【公表日】平成22年12月16日(2010.12.16)

【年通号数】公開・登録公報2010-050

【出願番号】特願2010-525235(P2010-525235)

【国際特許分類】

C 09 F	1/04	(2006.01)
C 09 D	11/00	(2006.01)
C 09 J	11/06	(2006.01)
C 09 J	193/04	(2006.01)
C 07 B	61/00	(2006.01)

【F I】

C 09 F	1/04	
C 09 D	11/00	
C 09 J	11/06	
C 09 J	193/04	
C 07 B	61/00	3 0 0

【手続補正書】

【提出日】平成23年9月8日(2011.9.8)

【手続補正1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項1】

二量化ロジンの製造方法であって、ロジンをカルボキシル化スルホン酸、アルキル基で置換されたアリールスルホン酸またはそれらの混合物である触媒と接触させて二量化ロジンを製造することを含み、前記アルキル基で置換されたアリールスルホン酸が少なくとも5個の炭素原子を有するアルキル基を含むことを特徴とする、方法。

【請求項2】

二量化ロジンが、アルカリ塩または有機アミンにより中和されて中和化二量化ロジンを製造し、前記中和化二量化ロジンが、任意選択により界面活性剤の存在下で水中に分散されることを特徴とする、請求項1記載の方法。

【請求項3】

触媒が、カルボキシル化スルホン酸であり、並びに触媒がロジンに基づき0.1~1重量%の濃度で存在することを特徴とする、請求項1記載の方法。

【請求項4】

触媒が、スルホコハク酸、5-スルホサリチル酸、5-スルホイソフタル酸および4-スルホフタル酸、およびこれらの任意の2種以上の組み合わせからなる群から選択され、並びに触媒が、ロジンに基づき0.1~1重量%の濃度で存在することを特徴とする、請求項1~3記載の方法。

【請求項5】

触媒が、アルキル基で置換されたアリールスルホン酸であり、並びに触媒がロジンに基づき1~5重量%の濃度で存在することを特徴とする、請求項1記載の方法。

【請求項6】

触媒が、ペンチルベンゼンスルホン酸、ヘキシリベンゼンスルホン酸、ヘプチルベンゼンスルホン酸、オクチルベンゼンスルホン酸、ノニルベンゼンスルホン酸、デシルベンゼンスルホン酸、ドデシルベンゼンスルホン酸、ドデシルジフェニルジスルホン酸、およびこれらの任意の2種以上の組み合わせからなる群から選択される、請求項5記載の方法。

【請求項7】

二量化ロジンが、アルカリ塩、有機アミンまたはアンモニアにより中和されて中和化二量化ロジンを製造し、前記中和化二量化ロジンが水中に分散されることを特徴とする、請求項6記載の方法。

【請求項8】

固体のまたは水中の粘着付与剤樹脂としての、請求項1～7に従って製造された二量化ロジンの使用。

【請求項9】

インク用途のために樹脂を改質するためのモノマーとしての、請求項1～7に従って製造された二量化ロジンの使用。

【請求項10】

接着剤組成物およびインク組成物における、請求項1～7に従って製造された二量化ロジンの使用。

【請求項11】

二量化ロジンが、界面活性剤の存在下に中和される、請求項2記載の方法。